

水産・海洋研究発表会がWEB開催されました

当研究所では、本県で行っている水産に関する研究について、広く一般の方々に知っていただくため、毎年、研究発表会を開催しています。例年は当研究所の本所がある焼津の会場での開催でしたが、今年はコロナ感染拡大の状況を鑑み、1会場あたりの参加人数の制限、また参加者の移動を控えて頂くため、焼津（本所）と伊豆分場、浜名湖分場、富士養鱒場の4会場をWEB会議ソフトで繋いで各会場で聴講および質問可能な形式での開催となりました。

伊豆分場の近年の研究成果について、「30年後のマダイ資源量を予測する～増える？減る？データ解析から見たマダイ資源の将来～」と題し、マダイの放流に関する発表を行いました。発表内容の概要は以下の通りです。

- 種苗の放流によって増えた静岡県沿岸のマダイ資源について、今後の放流数や資源利用を検討するため、本県沿岸の資源量推定手法を開発した。
- 資源量を推定した結果、親魚、子供の量ともに安定して推移しており、さらに近年は増加傾向にあった。
- 将来の資源量をシミュレーションした結果、大きく放流数を減らさなければ、ここ数年と同程度の漁獲量が得られると試算された。

なお、当日は接続トラブルにより、発表が数分間中断する場面がありました。参加者の方々には、少々お待ち頂くことになりましたが、一方で「焼津まで行かなくても近くで聞ける。来年もWEB開催して欲しい。」といったご意見を頂きました。コロナ感染が落ち着いた後にも、様々な場面でWEB開催が定着していくと思われま



伊豆分場で発表を聞く参加者

(鈴木聡志)